

西本愛

## 窯焚きの夜・二十二時

千百七十五度 千百七十六度  
薪窯は  
燃えるのではなく 光を集める  
耐火レンガの隙間から  
ヒュルリ 蛇のような息をはいて

## 窯焚きの夜・二時

寝ずの番して 火を守り 火を落とす  
そこから三日眠る窯  
土と釉薬と灰  
暗がりのなか かそけし声は  
人には知られぬ 世界の言葉